

## 小学生起業体験プログラム



特設店舗で商品を販売



皆で話し合い、経営プランを立てる



店内のようすを観察し、経営に生かす

将来、どんな職業に就きたいか。子どもたちは夢を抱き、時には悩みながら成長していく。IT技術の革新など時代変化のスピードが速く、職業選択が難しい時代になった。だが、先の見通せない時代、自らの人生は自らの手で切り開いていく起業家意識は、どの職に就くにしても必要な能力。国も「起業家教育の普及に関する検討会」を開催し、推進事業を実施するなど普及を図っている。

会社経営を通して、子どもたちに起業家意識を育ててほしいと、阿南商工会議所が企画した「小学生起業体験プログラム」みんなで会社をつくって商売してみよう」が2月1日、2日の2日間、ショッピングプラザ・アピカで開催された。市内の小学5、6年生13人が参加。模擬会社を設立し、会社経営する一連の起業プロセスを学んだ。阿南商工会議所専務理事の湯浅隆幸さんは、「子どもたちには、このプログラムの体験を、将来の選択肢に生かしてほしい」と話す。



商品を企画し、製造する



会社経営での収支を計算する

子どもたちは、中小企業診断士らから説明を受け、必要な知識を得た。また、実際に起業した方から、商売のやりがいや苦労を聞き、社会の一端を垣間見たようす。その後、班に分かれて模擬会社での役割を決め、店内を観察し、経営の計画を練った。LEDや竹など地元特産品を使った商品を開発・製造し、店内で実際に商品を販売。お金を稼ぐことのたいへんさや面白さを体感した。最後に、班ごとに振り返りを発表し、学んだことを共有した。

参加した星野大誠さん(横見小5年)は「商品を買ってもらえるよう、諦めずに工夫することが大切だと感じた」、中川輝空さん(津乃峰小5年)は「経営には仲間とのチームワークが大切だと学んだ」などの感想があった。

本プログラムを通して、子どもたちは、さまざまな状況下で、自らが判断し、仲間と協力しながら前に進んでいく「社会を生きる力」を養ったようだ。そこには、一回り大きくなった子どもたちの姿があった。